

2022年10月25日
日本ガス協会

日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨

1. はじめに

現在、政府において総合経済対策が検討されている。この中で、都市ガス料金の上昇によるお客さまの負担も増えていることから、都市ガス料金の負担軽減についても検討の俎上に載せられているものと認識している。負担軽減が実現すれば、お客さまにとって望ましいとことと受け止めており、都市ガス業界として、制度検討にあたっては、しっかりと対応していきたい。

2. 都市ガス事業150年

10月31日に都市ガス事業は開始から150年を迎える。都市ガス事業の始まりは、1872年10月31日、横浜・馬車道におけるガス燈の点灯であった。

その後、ガス燈から調理や給湯などの熱利用へと用途は広がり、ガスの需要が拡大していった。

都市ガス原料も時代とともに変化し、1950年代には石炭系ガスから石油系ガスへと移り変わっていった。

半世紀前に開始されたLNG導入によるクリーンで高カロリーな天然ガスへの転換は、新たな基地の建設から全てのガス機器の熱量調整作業まで、多くの時間を要する一大事業であった。また、全国のガス事業者において高カロリー化を進めるため、日本ガス協会が策定した「IGF21計画」のもと、ガス事業者が相互に応援して熱量変更作業を進めるなど、業界一丸となって完遂させた。これは、都市ガス事業の「第2の創業」とも言える。

LNGの導入により、他の化石燃料に比べて環境負荷が低い天然ガスの需

要が大幅に拡大し、用途もコージェネレーションシステムやガス空調、家庭用燃料電池などに広がっていった。

一方、大規模災害などの経験をもとに、マイコンメーターやポリエチレン管の導入など、レジリエンスの強化も進め、ガスの安定供給と保安の確保にも取り組んできた。

現在は地球環境問題への対応として、カーボンニュートラル化に向けた取り組みを進めている。

都市ガス事業のさらなる発展に向け、カーボンニュートラル化の実現、レジリエンスの強化、経営基盤の強化への取り組みをさらに加速させていく。

なかでも、メタネーションの社会実装を柱とする、カーボンニュートラル化の実現は、都市ガス業界にとって大きな挑戦であり、いわば、「第3の創業」と位置づけ、業界一丸となって実現に取り組んでいく。

3. 地域活性化への取り組み

カーボンニュートラル化への対応や人口減少等、地域課題の解決に向けて、地域に根差した都市ガス事業者が果たす役割はますます重要となっている。

これらの課題解決に取り組む先進事例を紹介する「地域活性化フォーラム」を11月21日に開催する。是非多くの皆さまにご参加いただきたい。

以上